21世紀の医療を考える

東京医科歯科大学 学長
吉澤靖之
Yasuyuki Yoshizawa

私が学長に就任して、早1年半が経ちました。

これまで、大学の将来像を明らかにして、大学の執行部体制、学内の組織体制、教育など教養改革を行い「Bloom! 医科歯科大」などで紹介させていただきました。

今号は「チーム医療」を特集として取り上げました。

本年5月、大学間協定の締結を目指してネバダ大学を訪問しました。訪問中にICU病棟の回診を見るチャンスがありました。

レジデントによる病状説明の後、医師だけでなく、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、臨床栄養士が発言し、患者さんのために多角的な方面からの議論がありました。

現役教授時代、米国での国際学会出席の折、機会があれば臨床現場を見学させてもらいましたが、その頃と比較して議論する役者が一層増えたと思います。

さて21世紀の医療はどのようになっているのでしょうか?

まず健康寿命延伸のため個別化予防医学、すなわち先制医療が重要であろうと考えられます。

皆さんが年齢に関係なく健康に日常生活をエンジョイできるように、個人の遺伝的背景を基に、食生活やスポーツなどの生活指導および医療面からの健康チェック(ドック)を個人に合った形でアドバイスと健診を行うようになると考えられます。

次に再生医療の進歩により、通常の生活を送る期間が延びると考えられ、一層の超高齢社会が到来すると予測されます。

超高齢社会では、ますます全人的医療が必要であり、在宅医療すなわち、自宅で医療を受けることが一般的になると予測されます。

その他、日常生活をサポートする支援ロボットが普及し自宅で生活することが可能となり、そのロボットを修理する施設が拡大することが予想されます。

結果、全人的医療と在宅医療が一層望まれるようになると考えられます。

本学の基本理念は「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する。」であり、時代毎の社会の要請に対応することが重要です。

本学が社会の変化に応じて人々の幸福に貢献するためには、上記の状況を考えて地域連携により在宅で医療を受けられるようにチーム医療で援助することが必要です。

そのために学生時代から、チーム医療のトレーニングを受ける医学生、歯学生、看護学生、検査学生、衛生士学生の他に早稲田大学や星薬科大学からの学生も参加する教育連携を行っております。

また、本学の特徴である医学部附属病院と歯学部附属病院があることから、それぞれの持ち味を生かして一体となって患者さんへ対応する医歯連携が重要であると考えられます。

今号はチーム医療を実践するために重要な教育連携、医歯連携および地域連携の3つの側面から包括的、全人的医療を実践し進化させる、本学の意気込みを実感していただきたいと思います。

本学の基本理念には「知と癒しの匠を創造し、東京のこの地から世界へと翼を広げ、人々の健康と社会の福祉に貢献します。」とありますように、国内における全人的医療活動は重要であると考えております。

本学卒業生に出会ってよかったと思われるように本学も努力したいと思います。

東京医科歯科大学には医学部附属病院と歯学部附属病院の2つの病院があります。医科と歯科の両方を備えていることは本学の特徴であり、強みです。

医科歯科大
Bloom!
September 2015 No.19

CONTENTS

4
特集
3つの柱で連携を推進
未来のためのチーム医療
地域連携
教育連携
医歯連携

14
医療研究 ★ 最前線 未来医療を拓く
モデル動物の作製を高効率化
医学研究の発展に大いに貢献
難治疾患研究所 分子神経科学分野
田中光一教授

白血球にある免疫情報の複合体
HLA 遺伝子の日本人データを作成
大学院医歯学総合研究科 疾患多様性遺伝学分野
岡田随象テニュアトラック講師

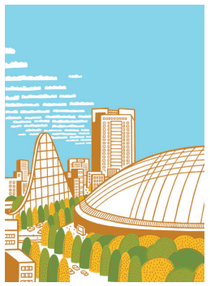
18
附属病院 ◎ 診療科訪問
歯学部附属病院 摂食嚥下リハビリテーション外来

19
卒業生の今
「活躍する医科歯科人」
厚生労働省医政局看護課課長補佐
習田由美子氏

20
医科歯科大生 file
「自ら問い、自ら導く学生たち」
医学部保健衛生学科看護学専攻 4年
加藤里沙子さん

21
医科歯科百景
法皇塚古墳

22
Campus Information



今号の表紙
国立大学一となる125.95メートルの高さを誇るM&Dタワーは、様々な場所から望むことができます。今号では、連日多くの人で賑う東京ドームのある水道橋方面からの姿を表現しました(中央にM&Dタワー、その左手下に3号館)。